

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793240011		
法人名	社会福祉法人 おおくま福寿会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	福島県双葉郡大熊町大字夫沢字南台152番地の2 (原発事故による避難先:会津若松市一箕町松長1丁目17-1松長近隣公園園急仮設住宅敷地内)		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原発事故により、会津若松市の応急仮設住宅敷地内で事業を再開している。震災前からの利用者が2名で、他は避難中に認知症が進行し、仮設住宅や借り上げ住宅で家族と暮らすのが困難になった方で、家族も県内外で避難生活を強いられている。会津は雪が多く冬場はほとんど外出できないため、桜花見、いちご狩り、さくらんぼ狩り、紅葉見学、外食・ショッピングなどの外出や、流しそうめん、パーベキュー、クリスマス会、誕生会などの行事、ふるさと祭りや集会所での地域の人達との交流会など、様々な体験や交流などで生活の中に楽しみを多く取り入れている。また、慣れない土地で家族と離れて暮らす寂しさや不安な気持ちを受け止め、安心できる落ち着いた環境作りや言葉かけなどの対応を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 仮設の事業所であるが職員と利用者の協力意識が強く、大熊ふるさと祭りなど様々なイベントに積極的に参加し交流したり、日々の散歩や買い物など個々の利用者の希望をくみ取った個別支援がなされている。
2 避難前の事業所から持ってきたパッチワークのひな飾りや利用者の笑顔あふれる写真等が共用空間に飾られ、日中居室に戻らず合唱やゲームに興じる利用者の賑やかな声があふれており、安心した生活が送れるように十分な配慮や工夫がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	避難生活を強いられ慣れない環境の中でも、安心して暮らせるよう、「職員が代理家族となり、家庭的な雰囲気の中、入居者に安心と潤いのある共同生活を提供する」また、「その人らしい暮らし」の実現と「地域に開かれた施設」「サービスの質の向上」のため自己研鑽や仕事に励んでいる。	仮設の中の生活であるが、職員と一緒に考えた理念を基に利用者のこれまでの生活や習慣を大事にしながら安心して暮らし続けられることに力点を置いた実践がなされ、理念も職員に共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仮設住宅敷地内で行なわれる、「大熊ふるさと祭り」やボランティアによる芸能発表などには積極的に出向き、大熊町の方達との再会や交流を楽しんでいる。また、以前からお世話になっていた理容師が同仮設住宅におり、定期的に散髪に来てくれる。	仮設の一角にあるため、大熊ふるさと祭りや大熊町民の芸能発表、カラオケ大会等に積極的に出向いて参加・交流するとともに、仮設内の馴染みの商店や理容室の利用、友人の面会支援など地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同仮設住宅で生活されている住民から、施設利用等について相談を受けた際に対応したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた要望や検討項目には、速やかに改善するよう努めている。	運営推進会議は震災前に委嘱された委員で構成され遠方に避難中の方もおり日程の調整が難しく25年は1回の開催に留まっている。会議では防火などへの活発な意見が出され事業所内で検討が進められている。	運営推進会議の委員は参加可能な大熊町住民や近隣の地元ボランティアなどに依頼するなど工夫して継続的に開催されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険担当の町職員が参加してくれるため、関係の強化はもちろん、制度上の重要な情報などをいただいている。また、地域包括支援センターからも新規入居希望者などの情報を得ている。	利用者の受け入れ時や運営推進会議には町の担当者と意見交換がなされている。地域包括支援センターは大熊町直営であり連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行なわれていない。研修会に参加した職員による伝達研修会を開き、全職員が理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員が、身体拘束の防止を含めた虐待防止研修を受講し、伝達研修を行い虐待等への理解と意識の共有に取り組んでいる。言葉による抑制いわゆるスピーチロックについては職員間で注意し合って拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、伝達研修会を開き全職員が虐待について学んでいる。虐待や不適切なケアの問題への対策の基本は、背景となる要因を分析し組織的な取り組みを行なうことと認識し、職員間の情報共有や気付いたことを話し合うなど、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで、制度の利用に至ったケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等からの入居相談があった際は、個々の介護状態に応じた料金や入居申込方法、入居検討委員会等について口頭での説明(電話相談受付可)を行なっている。契約の締結や解約時は管理者が身元引受人等との面談のうえ説明し、合意締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な不満や要望などがあれば直に聞けるよう、担当者が身近な存在として日頃より接する機会が多い。また、家族の来所時は、個別に管理者等の職員が対応し、意見や要望などを受付やすいようにしている。	家族も避難生活のため支払いの時だけ来所するケースが多く、担当職員を中心に意見を出やすくしているが、あまり意見は出されていない。利用者の希望は友人への電話や買い物などが出され、その都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、随時間き入れやすいような環境づくりに努めている。	職員の意見は管理者が聞く機会を設け運営に反映させている。介護福祉士など資格取得に際しては勤務日の調整など行い資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップ(各種資格取得のため、試験日や講習日に休暇を希望した場合など)目的には勤務日を調整(希望公休を認める)している。資格取得者(取得資格にもよるが)については、給与や身分の昇格等がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会の案内を回覧したり、順次研修会への派遣を行ったりしている。また、先輩介護職員が個々人に応じて独り立ちするまでの間、新人教育にあたり指導助言を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会から様々な情報や研修会の案内を受けている。可能な範囲で参加し、他ホームとの交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない土地で、家族と離れて暮らす不安を受け止め、入居を拒否される方については、日中の体験利用を数日行い、本人が納得の上で入居していただいている。また、家族からの様々な情報を下に安心できる環境設定と共に寄り添う関係であると認知して頂くよう働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方も県内外で避難生活をされているため、入居者への負担を最小限に考慮しながら、個々の実情に合わせて柔軟な対応を行ない、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった際、担当ケアマネジャーや町職員より直接情報を得ることで「その時(入居の時期)」の見極めや入居までのスムーズな連携が取れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「思い」を理解・共感し、個性を引き出すよう努めている。これまで、長年行ってきた「暮らし」が継続できるよう、掃除、調理、洗濯などできるだけ一緒に行なうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も避難生活の身で、県内外で生活されており、クリスマス忘年会への参加やお盆・年末年始の帰省などへの協力はあまり得られないが、定期受診はご家族に対応していただき、利用料の支払いは面会をかねてホームに来ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仮設住宅内の一角にホームがあるため、デイサービスや集会所で行なわれるイベントに参加し、大熊で近所だった方や知人と継続的な交流ができるよう努めている。	デイサービスや集会所のイベントに積極的に参加し友人や知人と積極的な交流の機会を持つとともに、散歩や買い物で仮設の住民と日々交流したり面会や仮設の知人宅訪問等、馴染みの関係が継続されるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は利用者同士の相性を考慮し、皆が不快感なく和やかに食事やお茶の時間を過ごせるよう配慮し、職員が間に入り利用者間の交流を深めるよう努めている。利用者同士でお互いに頼りにし合っている様子もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状としてなかなか難しい。しかし、昨年入院し、退院のめどが立たず退去となった利用者の息子さんが、退去後も時々ホームに足を運び入院中の様子や父親に対する思いなど話してくれた。話を聞くだけで何の役にも立てなかったが・・・。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を収集したり、職員から意見を聞いたり、本人の言動や行動だけに留まらず、総合的に把握するよう心がけている。	独自の様式を使用し本人の思いや希望の把握に努めている。「どんな生活を望むのか」、「どのような暮らし方を希望するのか」本人の言動や行動だけでなく家族や職員から意見を聞き総合的な把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や担当ケアマネからの聞き取りを行い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成のための、サービス調整会議時に、職員間で現状や課題等について意見を出し合い情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス調整会議で、ケアプランを基に個別にケースの検討や見直しを行なっている。また、本人や家族の要望を聞き入れながら、ケアの方向性について話し合っている。	本人や家族の希望、健康状態を把握し個別に作成したケアプラン(案)を基にサービス調整会議で職員から意見を出してもらい介護計画の作成、見直しを行っている。日々の介護記録がモニタリングに活かされていない。	介護記録は介護計画の支援内容を意識したものとなるよう様式を検討され、ケアの実践や気づきを把握しモニタリングに活用されることに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、特記事項の記録にとどまっておらず、ケアの実践・結果、気づき等には至っていない。今後取り組んでいきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応できるように心がけている。たとえば、入居者の定期受診や急病の場合、家族が遠方や仕事で都合がつかない場合、事業所で対応するよう調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に家族の力添えが大きい。たとえば、本人が面会を心待ちにしている様子を伝えたり、家族に電話をして本人と直接話してもらえるよう手伝っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や突発の病院受診は、家族対応で了解を得ている。(緊急時はその限りでない)ホームでの状況説明など必要に応じて職員が家族と共に同行し、同行できない場合でも、日々の健康状態の記録を情報提供している。	かかりつけ医の受診は家族が付き添い、事業所から健康記録をコピーし持参させ主治医との連携を図っている。受診結果の内容の把握もなされている。また職員が受診に付き添う場合もある。協力医療機関による緊急時の体制もとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、昼夜を通して介護にあたっていることで、利用者の状態変化について適格に把握し、管理者に報告している。管理者が1回/週の訪問看護師へ状況を伝え、相談し指示を仰ぎ、必要に応じて家族へ報告し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、状況確認のため本人に面会し、看護師との情報交換を行なった。また、家族からの情報も得ていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ここでの事業再開にあたっては、仮設であるため将来的な見通しが立たない状況に理解を得て利用していただいている。今後の対応について、個別に家族と話し合い方針を共有し支援していきたい。	入居時に重度化した場合の対応の指針を説明し理解していただいている。事業所で対応出来るところまで、管理者と職員は丁寧に対応し理解を得ている。同じ法人の看護師、委託訪問看護師、病院や介護保健施設等との連携もとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	課内会議で「緊急時の対応について」勉強会を行ない緊急時に備えている。また、訪問看護師との24時間連絡体制が確立されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで行われる年1回の総合防災訓練、1回/月夜間想定避難訓練を計画している。また、仮設内の自治会長への協力依頼により訓練に参加していただいている。	火災を想定した防災訓練を、年一回消防署立ち合いで実施した他、仮設内の自治会長・班長の協力を得て毎月避難訓練をしている。職員の防災意識が強いことに賛同した利用者の家族(消防団員)からも協力申し出があり、体制作りを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを傷つけない言葉かけや対応を心がけている。	管理者と職員は、一人ひとりの状況や生活のリズムを理解し、難聴の利用者にも落ち着いた声で対応している。トイレも利用者が終わるまで、職員はさりげなく廊下で待ち、次の利用者のために使用後のトイレ確認をし清潔維持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を引き出すことが困難な場合もあるが、好みの飲み物を選んでもらう際や活動への参加など、自己決定を促すことばかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、利用者のその時の状況に応じて、できるだけ柔軟に対応している。たとえば、朝、ゆっくり寝ていたい方については、無理に起こさず本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては基本的に本人の自由に任せているが、清潔であることと寒暖の調整に気配りしている。理美容については、毛染めなど本人の希望に添えるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い物に同行してもらい、食材選びや荷物運びなどを手伝ってもらい、調理の下ごしらえなども職員と一緒にこなしてもらうよう働きかけている。利用者と職員が同じ食卓で同じものを、会話をしながら楽しく食事ができるよう支援に努めている。	職員は、利用者と食材購入や食事の下ごしらえを行っている。帰宅願望の強い利用者には食材の買い出しなどで気分転換を図り落ち着いて昼食を摂れるよう工夫もしている。職員も同じテーブルで食事を摂り、食が進むような言葉かけや見守り支援がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分と食事摂取量が把握できるよう記録し、健康管理に役立てている。また、個人の希望や身体状況に応じて、ペットボトルに白湯を入れて渡している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけや洗面所への誘導、歯磨きの介助など、個別の状態に応じた対応を行なっている。定期的(週2回)に入れ歯洗浄剤で洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声かけ・確認・誘導などをそれぞれに合わせた対応で行なっている。個人の状況に応じてリハビリパンツやパットの使用を随時検討・見直しを行なっている。日中は個別の排泄パターンに合わせてトイレ誘導をし、布パンツに変更するなどリハビリパンツ等の使用を軽減している。	職員は一人ひとりの排泄リズムを熟知し、優しい言葉で誘導し、穏やかな表情のままトイレに行き来している。夜はリハビリパンツを使用するも、日中は布パンツとパットで自立してもらうよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の記録・確認を行ない排泄コントロールを実施している。できるだけ下剤等に頼らず、毎日の食事や規則正しい生活習慣によって、自然排便を促すよう努めている。それぞれの体力に応じた散歩や体操の実施や水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴ができるようにしているが、外出や通院、毛染めなど個別の都合で柔軟に調整している。一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう、好みの湯温にし入浴剤を使用している。	職員は、「一日置きの入浴」が利用者には分かりやすいことに気付き実行している。入浴時間(午前または午後)は希望を取り入れている。一人ごとに浴槽の掃除や湯温の調節を行い、入浴剤を入れ心地よく入浴出来るよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。就寝前には冷暖房等により居室の温度調整をし気持ちよく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、処方薬を家族から預かり個人個人の薬ケースに1週間分ずつ分ける担当が管理者、その日の昼・夕・翌朝分を与薬ケースに移し、与薬直前にケースから取り出し本人に手渡し服薬を確認するのが日勤者の担当とし誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、掃除、洗濯たたみ、食事の準備、買出しなど利用者個々の力に合わせて手伝っていただき、その都度感謝のこたばを伝えている。また、季節ごとの行事や野外活動、外食、ショッピングなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	「金融機関に行ってお金を下ろしたい」等の希望があった場合は、食材等の買出し時に一緒に出掛けている。また、花見や紅葉見学には、会津の観光地などにも出向いている。	天候や気温、当日の職員数を考慮しつつ、全員が外出出来るよう努力がなされている。当事業所のある仮設住宅内の店舗で買い物したり、敷地内散歩等、ここで出来ることは何かと管理者と職員は常に話し合い工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人に合わせた所持金の対応をしている。全て自己管理されている利用者もあり、本人の希望があれば金融機関への送迎もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から、家族や親戚などに電話をしたいとの希望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、季節の花や観葉植物、落ち着いたような小物を配置している。居室にはそれぞれ好みののれんを使用し、自分の居室の目印になっている。	仮設と感じさせないよう居間や食堂等共用空間にパッチワークのひな飾り、海を感じさせる貝細工の壁掛け、花や写真の飾り付けがなされ、利用者は、日中居室に戻らずそれぞれの好みのソファや椅子で過ごしている。和やかな合唱やゲームに興じる賑やかな声など安心した生活状況が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全体に狭い空間で、ひとりで過ごしたいときは居室で、食事やお茶、その他はリビングで過ごしている。リビングのソファを利用し思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室には、家族の写真やこれまで使っていた小物類など自由に配置していただいている。	一人ひとりの利用者の居室入り口には、目印となる「のれん」「花の写真」「木製の名札」があり温かみがある。ベットの脇には、家族の写真や本、新聞等利用者の好みの物があり、また枚数が多くなった写真は、職員が大判の紙にレイアウトを施し利用者の目線に合わせて掲示されている。服や靴、小物の置き方などその人らしさを大事にするなど職員の配慮と工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカー使用で歩行している利用者が、夜間眠剤服用するため、トイレへの移動の際転倒の危険性があるため、本人了承の下、夜間のみポータブルトイレを使用している。		